

富山県子育て支援・少子化対策県民会議第2回基本計画策定部会

- 1 日時 平成26年6月2日（月）13:00～15:00
- 2 場所 高志会館 麗花
- 3 議事 基本計画の骨子案について
- 4 委員発言

<A委員>

・いろいろな面で、おじいちゃんおばあちゃんが、子育てにとって非常に大切だと思う。計画の中に位置づけられないか。

<B委員>

- ・富山県の特徴をもっと踏まえるような重点の出し方をしていただきたい。
- ・仕事と家庭生活との両立について、いわゆる安心して働く、安心して子育てができる、その「安心」の分析をもうちょっとしていただきたい。
- ・祖父母の支援や、職場での支援等、キメの細かい支援策というものを、特に仕事と家庭という両面から活かしていくと、富山県の特徴を踏まえたものであると思う。
- ・計画を実現するための財源の確保にも留意して欲しい。
- ・県全体で若い世代へのライフプラン教育について、どう体系化していけばいいか検討していただきたい。

<C委員>

- ・富山県には、とても元気なおじいちゃんおばあちゃんがおられるので、よその家の子どもたちも広く見ていただけるような、ファミリーサポートみたいなものも、もっと根が張って行ってほしい。
- ・保育だけではなく色んなことで市町村ごとに差があるので、ネットワークとして埋めていけるような施策をとっていただきたい。
- ・子育て応援券の予防接種での拡充も検討願いたい。
- ・男性も長期間でなくても育休を経験することで、親にとっても子どもにとっても非常にいいことだと思う。
- ・男性の育休等に積極的に取り組んでいる企業を褒めてあげることが大事。

<D委員>

- ・「男性の家事育児への参加」について、手伝いや参加というレベルではなく、積極的に主体的にするというふうに変えたほうがよいのでは。
- ・富山県は共働き率が高いが、全般的には男性の意識はまだそこまで開発されていない。
- ・もっと積極的に企業の支援が、ワークライフバランスや家事と育児の両立の鍵があると思う。

< E 委員 >

- ・放課後児童クラブのニーズは高いが、人員確保も難しい。
- ・発達障害のお子さんへの指導も求められており、放課後児童クラブの支援の中に、色んなお子さんの学童、居場所づくりがもっと必要なのではないかと思います。

< F 委員 >

- ・市町村の子ども・子育て会議は実務的なことが多く、理念的なところがあまり議論されていない。
- ・これまで県が子育て支援をリードしてきたと思っているが、市町村の実務的な数値の積上げだけでは、リードできなくなってしまうのではないか。
- ・少子化の指標である合計特殊出生率の目標を県が示す必要があるのでは。
- ・マイ保育園制度や子育て応援券は県が前進させてきたと思うが、今回の施策はインパクトが無くて心配している。

< 石井知事 >

- ・財源確保について、計画の第 6 章「計画の推進」で記載することになるが、計画を実施するには財源が必要であり、国の制度や予算措置も見極め、しっかり検討していきたい。
- ・元気な祖父母の役割も大事という話については、平成 19 年から子育てシニアサポーター制度を作り、地域で子育て経験豊富なシニアの方々にサポーターとして応援してもらおうとしており、約 660 人ほど登録されている。
- ・放課後児童クラブなどの職員不足について、職員や現場で聞くと、まず一つはお金の問題がある。また、夕方遅くまで開所する場合、預かる方も家庭を持っているので、そう簡単には見つからないという問題がある。
- ・女性の社会参加や、責任のある立場になるとすぐには帰れなくなる場合もあるので、ワークライフバランスの中でどうしていくか、大事な課題の一つとして議論を重ねていきたい。
- ・今後県としても日本全体の今後の大きな方向を見据えながら、どうしていくかというのを市町村や県民の皆さんの意見を十分配慮しながら大きな方向は示していけないといけない。
- ・子育て応援券の予防接種の拡充については、国が安全性の面で結論を出していない段階なので、もう少し様子を見させていただきたい。
- ・男性の育児参加は大切なことで、実際に、育児休業等で実績を上げている企業を表彰しており、最近は表彰する企業数を絞るのが大変なくらいになっている。
- ・男性も育児休業を取り、子育ての大変さを共に分かち合う、そういうことで社会全体で子育て支援をしっかりとやっていくことが大切。

< G 委員 >

- ・先生の数をもっと増やしてほしい。35 人以下学級が、以前は富山県でも進んで

いたが、最近では小学校 2 年生までと、中学校は選択性で中 1 までになっている。

- ・少人数学級または少人数学習どちらも進めていくためにも、数値として 35 人以下学級を小学何年生までというふうに目標で掲げて欲しい。
- ・放課後児童クラブの指導員について、保育の面で質のメンテナンスに配慮して欲しい。
- ・子育ては長い期間お金がかかるので、幼児期の保育料だけでなく、通学費等、もう少し長い期間での支援をお願いしたい。

< H 委員 >

- ・放課後児童クラブ等、ボランティアの活用も大切だが、専門性を持った仕事として確立することが必要。
- ・大都市流出を防ぐには、地方に女性の仕事を確保する必要がある

< I 委員 >

- ・病児・病後児保育や、低学年の放課後児童保育が節目だと思う。
- ・北陸新幹線開業にあたり、ストロー減少を懸念している。
- ・男性の積極的な参加というところでは、「参加」ではなく、言葉を選んでほしい。
- ・男性の看護職員は、長期間育児休業をとる傾向がある。

< J オブザーバー >

- ・教員数の配置増は、現場でもお願いしているところ。
- ・少人数学級と少人数指導とがあり、両方充実させるには、配置増が必要。
- ・教職員の配置増は、きめ細かな教育をしていくには重要。

< K オブザーバー >

- ・教職員定数の改善は、切なる第一の願い。
- ・生徒数や学校数が減っていても、部活動の数は減らない。
- ・特別な支援が必要な生徒も増えている。
- ・部活動のサポートや、オープンデーを設けるなど、父親の出番も積極的に広げている。

< L オブザーバー >

- ・色々な価値観等を持った生徒がおり、教員と生徒が触れ合う時間が確実に足りないと感じている。
- ・1 クラスの人数をもっと減らすべきということは実感している。

< M 委員 >

- ・企業の役割でこれから大切なことは、地域にどう貢献するかということ。
- ・育児や必要なときに休める、もしくは相談できることについては、はっきり言って

企業にとってそんなに負担ではない。

- ・説明会等で、Q&Aや、成功事例や失敗事例を是非教えていただきたい。
- ・人口が半分になったら企業やっていけなくなるので、危機感を持っている。